



愛知県安城市 亀塚遺跡 2020.8.8(土) 令和2年度発掘調査 地元説明会資料



調査主体
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

調査支援
株式会社 アート

令和2年度 安城市 亀塚遺跡発掘調査
遺構概要(2020年8月8日現在)
愛知県埋蔵文化財センター

20A

- 弥生時代(後期?) 周溝墓?
- 弥生時代～古墳時代初頭 竪穴建物跡
- 弥生時代(後期～末期) 溝
- 奈良時代(後期)・平安時代(前期) 溝
- 平安時代～ 竪穴建物跡(竪穴状遺構)

0m 5m

奈良時代(8世紀)後半の
須恵器が出土
墨書されたものもある

亀塚遺跡は、昭和48年(1973年)に発掘調査が始まり、昭和52年(1977年)の発掘調査では、人面文壺形土器が出土するなど、多くの注目される遺物がある遺跡です。

愛知県埋蔵文化財センターでは、鹿乗川において愛知県が行なっている中小河川改良工事にともなう埋蔵文化財発掘調査を平成10年度(1998年)から継続しています。

亀塚遺跡では、平成28年度から着手しています。

このあたりが最も高い位置
(標高7.8m)

江戸時代から明治時代の溝
(用水路?)

条痕文土器が多数みられる溝
弥生時代中期?

灰釉陶器(平安時代)
が出土

周溝墓などの周溝と考え
られる黒色土の溝状遺構

掘立柱建物の柱穴と
考えられるピット群

遺跡は、河川堆積によってできた
微高地の上に立地
基盤層は細かい砂や、シルト
(砂より細かく粘土より粗い)で構成

↓20B区

床面に炭化物が広がっていた竪穴建物跡

掘立柱建物の柱穴と考えられるピット群

令和元年度の発掘調査(19区)では、
弥生時代から古墳時代前期にかけて
埋没していった旧河道を発掘調査
しました。

旧河道の埋土からは、多数の土器が
出土するとともに、赤く塗られた木製
の盾や、銅鏃(多孔銅鏃を含む)が
出土しています。

こういった貴重なものを所有してい
た集落は、地域でも中心的な存在
だった可能性が考えられます。

集落の南端を区切っている溝
(旧河道の一部の可能性もある)

集落は東方へ
広がっているとみられる

弥生土器の破片を多く含む土
を盛り上げた築堤状の遺構

泥状になった炭化物を
多く含む埋土が広がる
溝状遺構

令和2年度の発掘調査は、前年度の
調査区(19区)の北側に20B区、
さらにその北側に20A区を設定し、
また、16区の南側にも設定しまし
た。調査面積は合計567㎡です。

20A区は、微高地の頂部に近く、
20B区の北部にかけて、竪穴建物
跡10基以上や多数の柱穴が検出さ
れています。その南側には東西方
向の溝があり、ある時期には集落
の端だったと考えられます。

0m 5m

- 弥生時代(後期?) 周溝墓?
- 弥生時代～古墳時代初頭 竪穴建物跡
- 弥生時代(後期～末期) 溝

令和2年度 安城市 亀塚遺跡発掘調査
遺構概要(2020年8月8日現在)
愛知県埋蔵文化財センター

20B

↓19区